

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ソフトウェア部会の活動が目指しているもの
- 2-私の提言 「人材育成の質創造と確保に向けた継続的挑戦」
- 2-ルポルタージュ 第335回事業所見学会
- 3-12月の入会者紹介/行事案内/論文募集
- 4-The 7th ANQ Quality Congress Call for Papers

ソフトウェア部会の活動が目指しているもの

JSQCソフトウェア部会 部会長 兼子 毅

「日本的」品質管理へのこだわり

日本品質管理学会の中でソフトウェア部会が動き出したのは、2005年春のことである。当初は参加しているメンバーが交替で話題提供する、サロンのような活動から開始した。わが社ではこのような活動をしている、最新の技術動向はこうである、こういうことに困っているのだが知恵を貸してほしい、などなどの雑然とした話題が交わされていた。

そのような議論の中から、そもそも「日本的品質管理」とはいったいどういうことだろう、というテーマが浮かび上がってきた。日本で生まれた「日本的品質管理」の背景には、日本の風土、文化、習慣などが深くかかわっているのだろう。

「日本的」とはいったいどういうことか、話を深めていくにつれ、現在のソフトウェア品質管理がおかれている状況、言い換えると欧米からISOだCMMだと新しいフレームワークが提唱され、その学習や適用に躍起になっている状況、これは「日本的」とは完全に対極にある、ということに気がついた。

ソフトウェア開発の世界では、しばしば「銀の弾丸」という言葉が用いられる。「銀の弾丸」とは、狼男や悪魔を一撃で倒す不思議な力を持った弾丸のことである。「銀の弾丸」は存在しないはずなのだが、なぜか今でも、多くの管理者や技術者が「銀の弾丸」を

探し求めているように見える。欧米から発信される様々なフレームワークは、まさに「銀の弾丸」のように怪しい光を放って見えるのだ。

私たちソフトウェア部会は、「日本的」な何かを世界に発信することが、われわれの役割であると考えた。もともと「日本」が不得手な、新たなフレームワーク作りではなく、ボトムアップで多くの事例を集め、今まで私たちが「日本的品質管理」として実践してきた多くの事実を纏め上げていくことにした。

暗黙知の形式知化

1980年代の日本のソフトウェア産業は、メインフレームメーカーを中心とした重厚長大な大規模開発が主であり、極めて高い品質を誇っていた。われわれは、1980年代当時の開発者が持っていた、高い品質を実現するさまざまな「知」を記述し、整理し、後世に残すべきであると考えた。それらが現在でも有用か、将来でも役に立つのか、それは読む人が決めればよい。議論の結果、以下のようなステップで作業を進めることにした。

- 1) 既に論文、学会発表などで公開されている「形式知」を集め、それらを記述するための枠組みを考える。
- 2) 集まった「形式知」をいろいろ並べ替え、より探しやすい分類方法を模索する。
- 3) 2) で作成した「分類表」に収集した「形式知」を布置していく。

4) 「分類表」は隙間だらけになるであろうから、そこに埋めるべき「暗黙知」を探しに出かける。

最終的には、「暗黙知」を「形式知」化することまで狙っているので、「暗黙知の形式知化」プロジェクトと呼ぶことにした。しかしながら、80年代に最前線の現役技術者は、そろそろ定年を迎える時期であり、誰言うとなく、部会内では「遺言」プロジェクトと呼ばれている。

部会長にプロジェクト・マネジメントの能力が欠落しているため、遅々として進んできたが、現在(2008年末)では、上記ステップの3)に入ったところである。今までの検討過程でも、極めて有益で示唆に富んだ議論が行われた。この会合にほぼ皆勤で参加している若手エンジニアのI君なども「いつか自分がプロジェクト・マネジメントをするときに役立つ知恵がたくさん」と参加の意義を認めている。ソフトウェア部会には、「研究」などと肩肘張らず、自分のために勉強してみよう、くらいのつもりで参加して欲しい。ただ、英語でも「ギブ・アンド・テイク」というように、まずは「ギブ(=与える)」が先である。すばらしい知見を皆に披露する、以外にも、議論に参加して議事録を作る、資料のアーカイブを作ってくれる、飲み会のアレンジをしてくれる、これすべて「ギブ」である。自分にもできる「ギブ」を一つ携えて、ソフトウェア部会へどうぞ。

● 私 の 提 言 ●

「人材育成の質創造と確保に向けた継続的挑戦」

金沢工業大学 石井 和克



平成20年に中央教育審議会（以下審議会と略す）で「学士課程教育の構築に向けて」答申案が了承された。また、日本学術会議では「大学教育の分野別質保証のあり方に関する審議」が始まった。これら一連の動きの背景には以下の課題認識がある。①21世紀はグローバルな知識基盤社会、学習社会である、②学習成果を重視する国際的流れの中で我が国の学士の水準の維持・向上のための教育内容の充実の必要性、③少子化、人口減少の趨勢の中で、大学全入時代に対する教育の質保証システム構築の必要性、④学士水準の教育を担当する大学

は知性ある21世紀型市民として職業人としての基礎能力を持ち、創造性のある人材育成に対する社会からの信頼に応え、国際通用性を備える必要性、⑤そのためには大学間の連携・協同化に加え審議会、学術会議及び学協会を含む大学団体のネットワーク化が必要である。

一方、平成3年の大学設置基準大綱化以降の大学改革の経緯に基づく問題認識として、大学の個性化に伴い①学位が保証する能力水準の曖昧化、②学位の国際通用性喪失、③組織や専攻分野名称の多様化に伴う混乱、④学習成果の未実質化、⑤教育内容・方法、学習の評価を通じた質の管理の緩さの指摘がある。

これらの認識を基に、問題解決の方向として①「学士教育課程」の概

念に基づく改善と②学習成果の指針としての「学士力」の明示、③出口、入口とプロセスの3つの方針に基づくPDCA管理を、教職員の能力開発を中心として展開すると共に、④分野名称のあり方のルール化を提言している。これは学部・学科という枠組みを前提に「教える」視点のシステム作りがこれまでの姿であったものを、学習者が学位を得るための「学び」の学習支援システム作りへの変化の要請である。

これに対し、大学は①個性化で多様な人材育成という質創造と、②その質水準の高度化・安定化という質確保を、③活性化を通じて競争優位を確保するための継続的改善努力をすることになろう。

このような人材育成に関する国家的課題に加え、質に起因する様々な社会的問題を見聞きすると人材育成の質問題の重要性を実感する。この問題解決に対する本学会への社会的期待に対し、どう応えて行くかを大いに議論し、情報発信することは学会発展の好機ではないだろうか。

第335回 事業所見学会 レポート

花王(株)すみだ事業場・ 花王ミュージアム

2008年9月24日第335回事業所見学会が東京都墨田区にある花王(株)すみだ事業場で開催された。

花王すみだ事業場は国内3ヶ所の事業場の一つであり、JR総武線亀戸駅から歩いて15分という下町に位置する。同社の工場見学コースでは東京工場と表示されていて、その標準見学コースでは化粧品（ソフィーナ、オーブ）、美容センター、エコーシステム、花王ミュージアムなどの案内が可能となっている。

今回のテーマは「花王における品質保証活動の取組み—よきモノづくりの核心—」で募集し定員30名を超える人気の見学会となった。その結果、説明会場の椅子が不足してご迷惑をかける一幕もあったが、見学会は時間通り進んだ。

説明は最初に企業紹介、花王ウェイ「使命」「ビジョン」「基本となる価値観」「行動原則」からはじまり、次

に品質保証活動、花王エコーシステムと順次詳細なご紹介と活発な質疑があった。正に品質経営の模範企業ということが再認識できる内容であった。

今回の見学会の目玉の一つは「花王ミュージアム」であった。創業から絶えまなく革新を続けてきた花王の歴史とともに、日常生活の象徴ともいえる「清浄文化」に注目し、その歴史紹介は実物展示と実体験を交えて、絵巻物語りで特に印象的であった。また二つ目の目玉の「エコーシステム」では消費者からの声をリアルタイムに収集して、新商品開発につなげるためにIT活用方法を含めて更に改善されていて、益々確固たるシステムへ進化を遂げている様子に大変関心させられた。

「よきモノづくり」をいまに継承する花王の企業精神と企業文化のエッセンスを理解し、また花王ファンが増えたと感じられた見学会であった。

末筆ながら今回の見学会の窓口から案内まで全てをご対応いただきましたヒューマンヘルスケア事業ユニット・商品開発部長の 田中幸隆様にお礼を述べさせていただきます。

藤井 暢純（サンデン(株)）

2008年 12月の入会者紹介

2008年12月3日の理事会において、下記の通り正会員17名、準会員2名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....
(正会員17名) ○北岡 康司 (パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス) ○佐藤 健 (東京都

農林総合研究センター) ○山田 幸雄 (五大開発) ○森田 恭一 (セーコウ) ○片山 勝之 (スター精密) ○高橋 与志 (広島大学) ○深津和夫・成瀬 義孝 (アイシン精機) ○森下 泰宏 (スミスメディカル・ジャパン) ○清水 和久 (神戸大学) ○木村 英雄 (日本バイリーン) ○勝又 聡 (タイトー) ○土屋 明德 (金沢工業大学) ○吉富 智道 (児玉化学工業) ○竹本 康彦 (県立広島

大学) ○横山 吉男 (テーガル) ○野間口 隆郎 (筑波大学)

.....
(準会員2名) ○長谷川 雄大・尹東勳 (慶應義塾大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○クラリオン

.....
正会員：2678名
準会員：98名
賛助会員：172社199口
公共会員：23口

行事案内

●第64回クオリティバブ (本部)

テーマ：これからのISOマネジメントシステム審査—審査員の価値—

ゲスト：井口新一氏

(財)日本適合性認定協会

日時：2009年2月24日(火)18:00～20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第13回電気通信大学 情報システム学 研究科シンポジウム

テーマ：信頼性とシステム安全学

開催日：2009年2月27日(金)

時間：9:30～17:30 (予定)

会場：電気通信大学IS棟2F大会議室

参加費：無料

主催：田中・長江研究室/鈴木和幸

研究室 (システム工学科)

協賛：日本品質管理学会ほか

申込先：tanaka@is.uec.ac.jp

●第338回事業所見学会 (関西)

テーマ：先端医療で要求されるものづくりの取り組み～医療用機器

(主に検体検査用) の品質活動～

日時：2009年3月6日(金)13:00～16:00

見学先：シスメックス(株)加古川工場

定員：30名

参加費：会員2,500円 非会員3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●H20年度 PCAPS研究・QMS-H研究 研究成果報告シンポジウム

テーマ：医療における臨床知識・技術と質マネジメントの融合

日時：2009年3月7日(土)10:00～18:00

「知識構造化手法PCAPSの可能性を探る」

2009年3月8日(日)10:00～17:30

「ここまできた質中心経営管理システム」

会場：東京大学本郷キャンパス

安田講堂

申込方法：PCAPS事務局 (佐藤)

E-mail: Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL 03-5841-7299

FAX 03-5841-7276

申込締切：2009年2月27日(金)

詳細：ホームページをご覧ください。

http://www.jsqc.org/q/news/events/090307_08qms-h.ppt

●第127回シンポジウム (関西)

テーマ：厳しいグローバル競争の中での人づくり・ものづくり

日時：2009年3月10日(火)

13:00～17:30 (予定)

会場：中央電気倶楽部 5階511号室

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

プログラム：

基調講演「グローバル競争時代における品質マネジメント」

Dr. Anthony Hayter

(デンバー大学) * 逐次通訳

講演1 「日本企業の海外展開～今後の戦略課題と展望～」

高橋俊樹氏

(ジェットロ東京本部)

講演2 「ものづくり～中国に適應した事業展開～」

許 炎氏 (THS(株))

講演3 「人づくり～グローバル社員教育の推進～」

洞澤喜光氏 (パナソニック(株))

パネル討論：全講演者

申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

●第89回研究発表会 (本部) 発表募集

日時：2009年5月30日(土)31日(日)

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル

(1) 申込期限

発表申込締切：3月23日(月)

予稿原稿締切：4月24日(金)必着

参加申込締切：5月20日(水)

(2) 研究発表・事例発表の申込方法

12月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3) 参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯: 090-9128-7979

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

The 7th ANQ Quality Congress Call for Papers (JSQCメンバー向け)

“Prosperity through Quality - The ANQ Way”

Organized by : Asian Network for Quality

Hosted by : Japanese Society of Quality Control, and Faculty of Science and Engineering,
Waseda University

Supported by : Union of Japanese Scientists and Engineers, and Japanese Standards Association

☆参加のお勧め

2009年9月15日～18日、東京にて、第7回アジア品質ネットワーク（ANQ：Asian Network for Quality）Quality Congressが開催されます。ホームページ（<http://www.anq2009.org>）よりご確認ください。研究発表には口頭とポスター・プレゼンテーションがありますので、申込書に希望を記入してください。提出されたアブストラクトはすべて、大会プログラム委員会によって審査されます。

テーマ：“Prosperity through Quality - The ANQ Way.”

場所：早稲田大学（東京） 大久保キャンパス
（2009年4月に西早稲田キャンパスに名称変更予定）

公式言語：英語

アブストラクト提出締切：2009年3月15日(日)

JSQC宛 office@jsqc.org

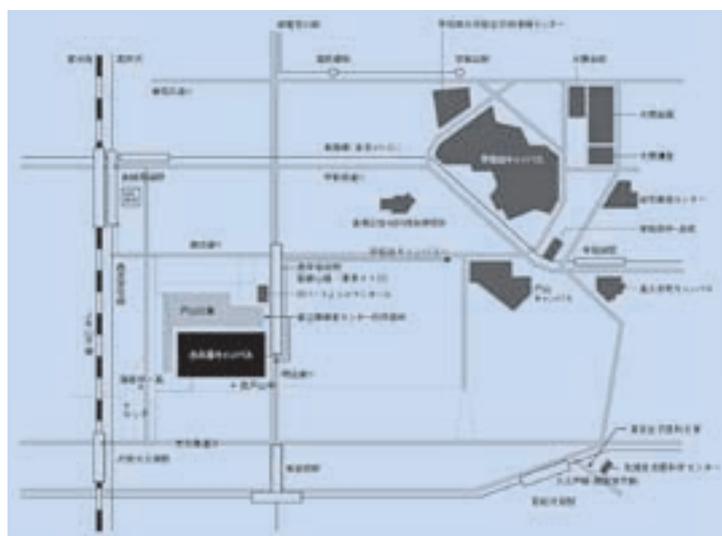
ホームページ（<http://www.anq2009.org>）から“Abstract Submission Form”をダウンロードし、下記の内容を記入してお申し込み下さい。

1. 論文題目（英語）
2. 著者と所属（英語）
3. 連絡先（英語）
4. 「口頭」か「ポスター・プレゼンテーション」の希望
5. アブストラクト（A4・2ページ、英語あるいは日本語）

採択通知：2009年5月31日(日)

フルペーパー提出：2009年7月15日(水)

JSQC宛 office@jsqc.org



<http://www.sci.waseda.ac.jp/campus/index.html>

大会委員長からの歓迎メッセージ

日本品質管理学会（JSQC）は2009年9月15日から18日に東京で開催される第7回ANQ会議に参加される皆様に歓迎します。JSQCはこの会議のホストを務めることを光栄に思うとともに、総力をあげてこの会議が成功するように準備しています。会議のテーマは、「品質を通じた繁栄—The ANQ Way」です。アジアの各国において品質に関する研究開発に日夜邁進されている関係者の努力が、アジアの繁栄をもたらす源泉であると確信しています。本会議で皆様の日頃の成果を発表し合い、そして実のある討論や成果を相互活用し合うことがアジアの力強い繁栄に結び付いてゆく事を期待しています。そのためにも是非多くの皆様の参加を御願い致します。東京でお会いできる事を楽しみにしています。

大会委員長 大沼 邦彦

Welcome Message from the Chairperson ANQ

7th ANQ Congress at Tokyo from September 15 to 18, 2009 provides a unique opportunity for quality professionals from all over Asia to share their experiences and learn from each other in the field of quality management through research and its application. Diversity of experiences from various regions of Asia with rich culture could provide a proper blend as defined in the ANQ Way and contribute to the prosperity for the people in the whole of Asia as stated in the Congress theme.

The current Global economic crisis provides an opportunity for ANQ to show the way for revival through Quality Management. The ANQ Congress offers rich experience at a low cost in tune with the ANQ philosophy of Austere and Simple Living.

We from ANQ invite and welcome quality professionals from all over Asia to join our endeavor in working together to find an appropriate way towards the common Goal for the benefit of all.

Janak Mehta Chairperson, ANQ